

### 1. 豊中中心部地域

住宅都市・豊中のイメージを形作った近代豊中の出発点

- 「豊中市中心市街地活性化基本計画」に規定する中心市街地（阪急蛍池駅から曾根駅までの沿線エリアを中心に約570haの区域）を含むエリア
- 明治43年の箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄）の開通により、沿線周辺の良い住宅地の開発が進んだ。
- 特に豊中住宅地（大正3年）は、本市では初めての大規模（約5万坪）な住宅開発。桜並木に、住民の集会所「豊中倶楽部」や銀行や学生の寄宿舎もあった。こうした大正期のハイカラな郊外生活が、近代から現在にいたる豊中市の都市イメージを形作った
- また区画内には当時としては日本一の規模を誇った「豊中グラウンド」も設けられた。高校野球・高校サッカー・高校ラグビー発祥の地
- 岡町駅周辺は、江戸時代から原田神社の門前町として栄えた
- 地域内の駅前ごとに商店街が形成
- 曾根駅、服部天神駅周辺には、豊中ローズ球場をはじめとするスポーツ施設や文化芸術センターなどの文化施設が集積し、文化・スポーツゾーンを形成
- 阪神高速道路より西の西部地域は、大阪国際空港に近いほか、道路交通網に恵まれており、用途地域で見るとほとんどが工業系の地域である
- 大阪モノレール柴原駅付近には、大阪大学豊中キャンパスや同大学総合学術博物館がある

### 2. 千里ニュータウン周辺地域

千里ブランドともいえる、北摂を代表する良好な住環境

- わが国初の本格的なニュータウン（豊中市域は360ha）
- 緑豊かで、良好な住環境
- 民間住宅会社の「住みたいまち」ランキングでは、千里中央地区として常に上位に位置
- 千里文化センターコロポを拠点とした盛んな市民活動
- 隣接する上新田地域は、古い趣のあるまちなみが現在も点在
- 千里中央から大阪へ直結する北大阪急行の沿線はその交通利便性から関東などの通勤者も多い
- 沿線には豊かな緑のほか、音楽・スポーツ施設や植物園、日本民家集落博物館など様々な機能を兼ね備えた服部緑地がある
- 服部緑地には日本センチュリー交響楽団が拠点

### 3. 南部地域

下町風情の残る活気溢れる地域

- 庄内駅周辺は、にぎわいのある商業業務地
- 豊南市場もあり、「北摂の台所」とのネーミングも
- かつての下町のような雰囲気を持ち、「活気」、「親しみ」、「賑わい」などのフレーズが似合う地域
- 大阪音楽大学や同大学ザ・カレッジ・オペラハウスや同大学音楽博物館、ローズ文化ホールもあり、文化環境も充実
- 神崎川沿いは工場も多く集積

#### 本市の特性

- ・大阪国際空港や公共交通機関、道路網など交通利便性が高い。
- ・早くから住宅地としての開発が進み、都市としての成熟期を迎えている。
- ・通勤・通学・買物などで市外流出が多く、「ベッドタウン」としての性格が強い。
- ・千里、豊中、庄内と、その成り立ちの違いなどから、魅力の異なる3つの地域がある。